

8－8					
主題	地域活動による、職員への効果について				
副題	「学び舎なぎさ」開催による、職員の育成、やりがいへの効果				
キーワード 1	地域発信	キーワード 2	やりがい	研究(実践)期間	11ヶ月

法人名	社福) 東京栄和会	事業所名	なぎさ和楽苑
発表者(職種)	佐藤雄一郎(介護長)		
共同研究(実践)者	なし		

電 話	03-3675-1201	FAX	03-3675-1203
-----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	なぎさ和楽苑は 1965 年 23 区内初めての特養として足立区に開設。都市整備のため 1980 年に江戸川区の土地の無償提供を受け移転。2005 年 4 月にユニットケアを取り入れた施設へ立て替えを行う。若年性認知症事業、障害短期入所事業など多岐にわたる事業を行っている。
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

「地域における公益的な取組」は社会福祉法人の責務であり施設全体として取り組みは行っているが、特養介護職が主体となつての地域活動や発信する機会がほとんどなかった。そのため特養介護職の地域における公益的な取り組みへの関心不足や、地域活動の経験不足が課題となっていた。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

本研究の取り組みとして、特養介護職が地域への発信の機会を主体的に行うことを目的とするなかで、以下の 2 つの効果があると仮説し検証していく。①地域への発信する場を企画し、運営していくことで職員の地域活動への意識の向上、発信力が高まると考えられる。②介護福祉士会が実施した「専門職(介護福祉士)であることを実感できる業務や状況」アンケート結果では、「後輩に対して介護技術を指導する」、「実習生に対して介護技術を指導する」「カンファレンスの場で、専門職として発言することができ」など指導や発信する項目で「とても高く実感できる」と結果が出ている。そのため、特養介護員が主体となり活動することで、専門職としてのやりがいに繋がると考える。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ① 地域に向けての学びの場を【学び舎なぎさ】とし年間を通して実施する(年 10 回開催)
- ② 【学び舎なぎさ】の目的を、下記として、特養で構成する専門職にて企画、運営、広報をする。
 - 1、 地域で「介護・福祉」の理解が深まるよう、情報発信と学びの機会を構築する。
 - 2、 地域共生社会の実現を目指した全世代型のプログラムを目標に実施する。
- ③ 開催ごとに受講者にアンケートを実施する。
- ④ 職員の取り組みとして、毎月の専門職で構成する会議で振り返りを行う。また、職員の意識変化など

の確認のため実施前、実施後のアンケートを行う。

《4. 取り組みの結果》

令和 6 年 11 月現在で、【学び舎なぎさ】を 8 回実施した。

内容は、ボランティア入門編、栄養士による食事講習、介護予防体操教室、看取りについて、若年性認知症支援の講座を実施。1 月に認知症について、2 月ボランティア活動について実施予定

受講者の延べ人数は 67 名 担当した職員の延べ人数 27 名

受講者の【学び舎なぎさ】についての満足度は、「非常に満足・満足」を合わせて 98.5%となった。

受講者の自由意見では、大変勉強になった、実際の介護でも参考になった、定期的な開催をして欲しいなどの意見があった

職員のアンケート結果に関しては、地域への活動に対しての意識変化、専門職としてのやりがいなど、活動を通しての変化がみられた。自由記述の意見には、地域の方との関わりで在宅ケアにおける悩みや、現状が見えたこと、実際に自分たちが行っている事を伝えることで参考になったと意見をもらい、担当してよかったなどがあった。

《5. 考察、まとめ》

- ① 年間を通して【学び舎なぎさ】を実施し、企画、運営、広報をすることで地域への理解、地域に置かれている課題の一部を感じることができた。また、開催するまでの準備、地域の方々に必要な情報を伝える手段など、日頃から地域との関りをもつ必要性を改めて感じる事ができた。講座は地域への発信する一つの手段であり、そこまでの準備の積み重ねも含めて発信であると気付くきっかけとなった。
- ② 年間を通して【学び舎なぎさ】を実施し、介護職が専門職と共同して担当することで専門職同士の相互理解に繋がった。また、それぞれが自身の専門性を振り返りながら、活動ができたことでアンケート結果からも専門職としてのやりがいの向上へと繋がった。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

令和 3 年度介護労働実態調査 「介護労働者の就業実態と就業意識調査結果報告書」 公益財団法人 介護労働安定センター

令和 4 年 1 月 15 日 「介護福祉士としてのやりがいや誇りについて（実態調査）」の報告 公益社団法人日本介護福祉士会

令和 4 年 3 月 31 日「介護福祉士の処遇と職務に関するアンケート調査」報告 公益社団法人日本介護福祉士会

《8. 提案と発信》

地域公益活動の一つの役割として、地域への発信をすることで職員の意識向上、やりがいへと繋がり成長へと繋がっていくため今後とも継続していきたい。